

ISHIKARI PRIDE

第5期石狩市総合計画
2015-2026
2023年(令和5年)改訂

ISHIKARI
BOOK

いしかりし
まちづくり本

いしかりし
まちづくり本

第5期総合計画は



市民と行政の
約束

市民が主役

もっと
いしかりを
好きになろう

この新しい総合計画は、これからのいしかりがどんなまちを目指して、どのようにまちづくりを進めていくのか、その道しるべを市民と共有し、ともにまちづくりを進めていくための「市民と行政の約束」です。

「このまちに住み続けたい・住みたいと思うまち」であり続けるために、まちの財産であり、まちの活力の源である市民とともに、30年先の目指すまちの姿に向かって取り組んでいきます。

「いしかりが好き!」「いしかりは私の自慢のまち!」「いしかりイイネ!」など、もっといしかりが好きになる、いしかりに誇りや愛着を持つ、そんな魅力あるまちを目指し、目標に向かって市民と行政がともに歩んでいきたいと考えています。

いま、時代は人口減少・少子高齢社会への進行、それに伴うコミュニティの崩壊や医療・介護などの社会保障費の増大、また、社会経済構造の変化や地球レベルでの環境問題など、まちを取り巻く環境が大きく変化しています。

サケやニシンなどの産業で発祥した「石狩市」は、花川地区の宅地造成や石狩湾新港・工業団地の開発とともに急速な発展を続け、2005年10月の市町村合併を経て、より豊富な地域資源や可能性を秘めた都市へと成長を遂げてきました。

しかし、日本が直面する少子高齢化や人口減少、大都市への人口流出など、本市にとってもかつての成長基調^{※1}から成熟^{※2}・縮小の時代を迎えており、これからのまちづくりの進め方次第では、まちの存続さえも危ぶまれる、大きな転換期に立っていると言えます。

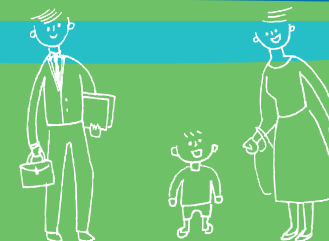
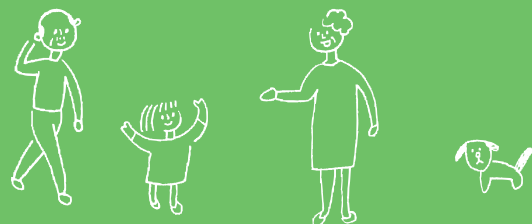
このような社会情勢を踏まえたこれからのまちづくりは、石狩市に暮らす市民が「住み続けたい」と思い、また、石狩市に住んでいない人も「住みたい」と思うような“魅力あるまち・いしかり”であり続けることが求められます。そうすることで、人口流出も抑えられるとともに、人がまちの活力となった活気ある魅力的なまちがつけられていくと考えます。

そして、そのようなまちであり続けるには、時代や社会の変化にとらわれない目指すまちの姿を、市民と行政がしっかりと共有し、そして、ともに考え、ともに取り組んでいくことが大切になります。

そのため、市民一人ひとりがいしかりに関心と愛情を持ち、やりがいと誇りを持って活動するまちをつくっていくことが求められています。

※1 成長基調：経済や産業活動が成長・発展の傾向にある動向

※2 成熟：成長の過程を経たある一定の状態。成熟社会では精神的な豊かさや生活の質の向上が優先されると言われている



いしかりって、現在、こんなまち

1日に、約**1人**生まれて、
約**2人**亡くなっています。

年間の出生数は280人。死亡数は610人。
1日あたりに換算すると、0.8人が生まれ、
1.7人が亡くなっています。

(2020年度(令和2年度)異動事由別人口動態)

石狩湾新港の貿易額は
約**1,759億円**道内2位の貿易額

石狩湾新港の輸出入貿易額は、苫小牧港に
次ぐ道内2位で、上位品目は、水産品や燃料
(石油・天然ガス等)です。

(2021年(令和3年)函館税関調査部調査統計課資料)

市民1人あたりの借金は約**53万円**
一方、貯金は約**5万円**

今後、人口が減少してくると税収も少なくなり、
市のお財布や貯金はさらにさみしくなるかもしれ
ません。

(2021年度(令和3年度)実績)

観光客は約**182万人**

市を訪れる観光客は約182万人。最も
多いのは、道の駅石狩「あいロード厚田」
で約35万人(全体の約18%)です。
また、戸田記念墓地公園の入場者数
は約30万人です。

(2021年度(令和3年度)実績)

1年間に使われるお金は約**360億円**
市民一人あたりに約**62万円**が
使われていることになります。

水道や下水道などの公営事業を除いた市の普通
会計(福祉や教育など行政の基本的な経費)の
決算は、約360億円です。

町内会に
入っている世帯は約**6割**

町内会では、地域住民の安全安心や快
適な暮らしを支えています。これまで
も、これからも、地域の絆やつながりは
とても大切です。

(2021年度(令和3年度)実績)

毎年約**1,900人**が市外へ引っ越して、
約**2,200人**が新たに石狩市にやってきます。

【転入ベスト3】

1位:札幌市北区 2位:札幌市東区 3位:札幌市西区

【転出ベスト3】

1位:札幌市北区 2位:札幌市東区 3位:札幌市手稲区

年代は、転入・転出ともに20代・30代が多く、全体の約5割を占めています。

2021年度(令和3年度)移動事由別人口動態)



石狩市



札幌市



除雪に使われるお金は約**16.9億円**
市民一人あたりに約**29,000円**が
使われていることになります。

市の年間降雪量は約5m40cmです。令和元年度は
7.3億円、令和2年度は11.4億円が除雪費用として使
われました。令和3年度は、大雪の影響で前年比約
1.5倍の16.9億円まで増加しています。

(2021年度(令和3年度)実績)

市民カレッジの年間開催回数は**21回**

新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止になるなど
として、例年よりも開催数が減少しています。令和3年度の市民
カレッジには述べ483人が受講しています。

(2021年度(令和3年度)実績)

比較:第5期石狩市総合計画策定年(平成25年度)の市民カレッジの開催回数は47
回、年間延べ1,625人が受講。(2013年度(平成25年度)実績)

約**33万冊**の図書、約**13万人**が
利用する市民図書館があります。

図書館は、年々利用者の数が減少しつつあるものの、
石狩市民の2倍以上の方が利用しています。
また、市外からも多数の人が訪れています。

(2020年度(令和2年度)石狩市市民図書館要覧)

救急車の出動は1日あたり約**9回**

令和2年1~12月の救急出動回数は3,425回。
4時間に1回出動していることになります。

(令和2年度消防年報(石狩北部地区消防事務組合))

全国の市町村では**初**となる「手話条例」があります。

2013年(平成25年)12月、手話を言語として認知し、手話に対する
理解の広がりを目指す条例を制定しました。

また、市では自治基本条例も制定しており、市民が主役となるまち
づくりや、誰もが豊かに暮らす共生社会に取り組んでいます。

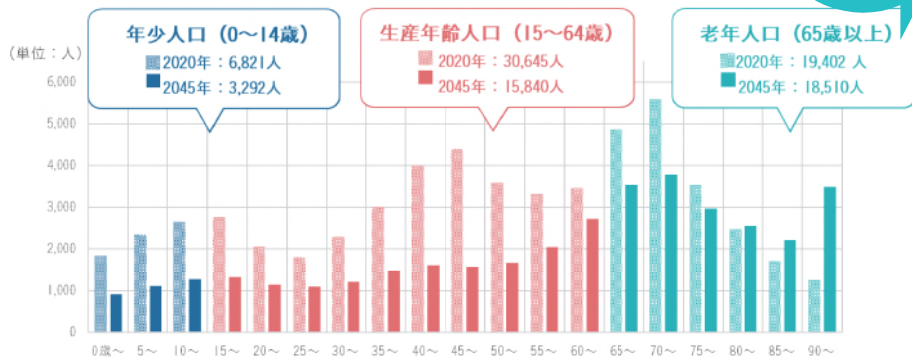
でも、こんなことが心配です

『少子高齢化が進み、まちの人口が減少します』

■ 5歳階級毎の人口推計

※2045年は国立社会保障・人口問題研究所による2018年3月推計値

総人口(全年齢) 2020年: 56,868人 2045年: 37,642人



日本全体で少子高齢化や人口減少が大きな問題となっています。これは石狩市においても同様です。

2045年の推計値では、このまいくと、1～14歳の年少人口(子ども世代)は、2020年から約3,500人(約5割)減少して約3,200人に、15～64歳の生産年齢人口(現役世代)も約14,800人(約5割)減少して約15,800人になると推計されています。また、65歳以上の老年人口(高齢世代)は、約890人(約0.5割)減少して約18,500人になりますが、人口に占める割合(高齢化率)は、2020年の約34%に対し、2045年には約49%に達すると推計されています。

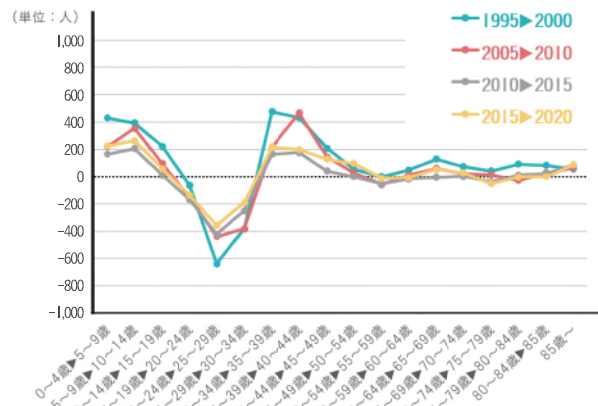
このように年代構成の大きな変化が見込まれているうえに、まち全体の人口規模も約3割程度縮小することが推計されています。

高齢者が増加
5人に2人は高齢者に

『貴重な人材や「いしかりっ子」の誇りも地域外に流出している?』

■ 年齢階級別移動人口の変化

(1995, 2005, 2010, 2015からの各5年間) ※国勢調査からの推計値



いしかりで育った子どもたちは進学や就職を機に、その多くが札幌市など市外に転出して行きますが、その後、いしかりに戻ってくる人は少ないようです。

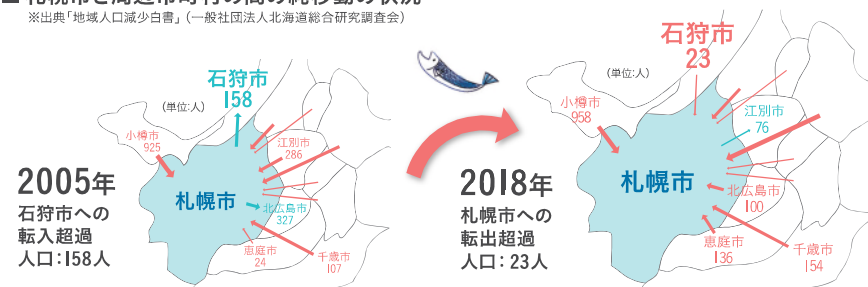
将来、まちづくりの担い手の中心となつてほしい若い世代が、生まれ育ったまちで思うように活躍できないからかもしれません。

『札幌市への「都心回帰」が強まっています』

かつてはまちの成長とともに、石狩市への転入人口が札幌市への転出人口を上回る状況が続いていましたが、近年は札幌市への転出人口が上回っています。

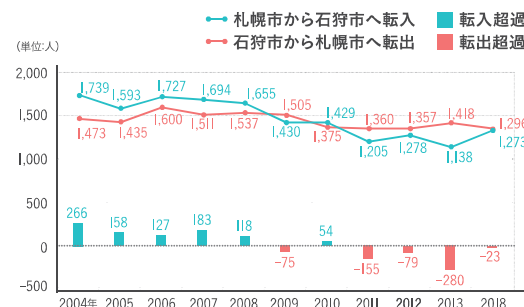
■ 札幌市と周辺市町村の間の純移動の状況

※出典「地域人口減少白書」(一般社団法人北海道総合研究調査会)



■ 石狩市への転入超過人口の推移

※資料「札幌市統計書」(札幌市)



『将来、人が住まない地域が増える?』

■ 1km毎の地点(メッシュ)別の将来人口の試算

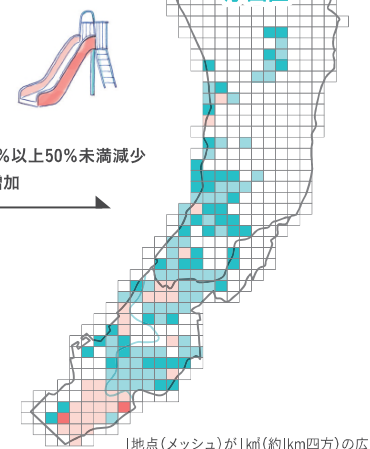
※「国土数値情報(将来推計人口メッシュデータ)国土交通省」を利用して作成

2050年の人口増減状況
2010年との比較

■ 非居住地化 ■ 0%以上50%未満減少
■ 50%以上100%未満減少 ■ 増加

2040年までの推計値等をもとに、国土交通省が行った2050年における約1km毎の地点(メッシュ)別の将来人口の試算では、2010年現在で市民が居住している184地点(メッシュ)の内、65地点で人が住まなくなる(非居住地化)と試算されています。

また、それ以外の多くの地点(86メッシュ・約7割)でも、人口が半分以上にまで減少し、2050年に人口が増加すると試算された地点(メッシュ)は、僅か2つに止まります。



1地点(メッシュ)が1km(約1km四方)の広さ

第5期 総合計画の構成と期間

第5期総合計画は、概ね30年先を見据えて、「まちづくりのミッション」と「目指すまちの姿(将来像)」を掲げ、その実現に向けた「戦略目標」と「基本施策」で構成します。

「まちづくりのミッション」

概ね30年先を見据えた、「石狩市のまちづくり」の使命であり、長期的なまちづくりの意志です。

「目指すまちの姿(将来像)」

都市としてのありたい姿(都市像)と、そこに暮らす市民の意識や想いなどのありたい姿(市民像)を示します。

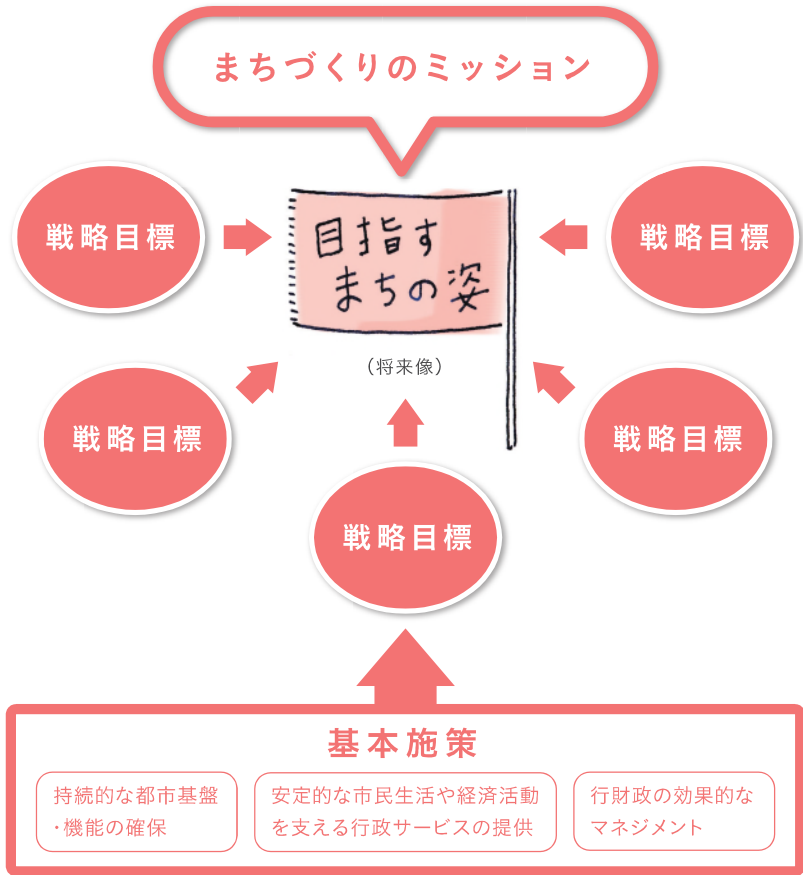
「戦略目標」

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて、戦略的に取り組む目標です。地域経営※1の視点で、市民・事業者・団体、行政が協働で取り組む目標であり、ともに高め合いながら成長していくための目標です。

「基本施策」

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて、戦略目標を進めていく土台となる施策群です。行政分野を網羅する様々な施策を、行政経営※2の視点から3つに分類して示します。

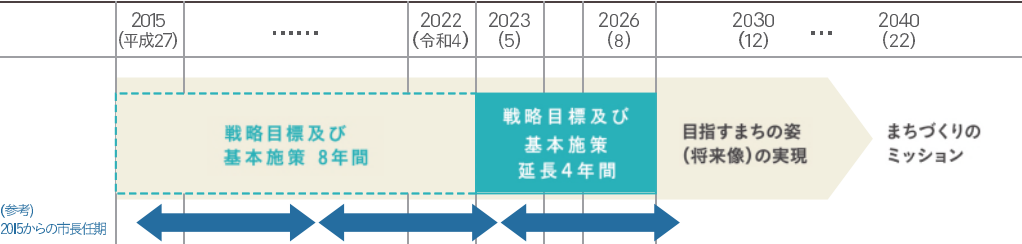
(第5期総合計画体系図)



「戦略目標」の計画期間と「基本施策」に関する期間の考え方

「戦略目標」については、市長任期との連動を図るとともに、一定期間における実践的な取組の実施状況の確認や定期的な見直しを図るため、当初4年を半期とした8年間(2015～2022年)を計画期間として設定していましたが、2023年から4年間延長し2026年までを計画期間として設定します。

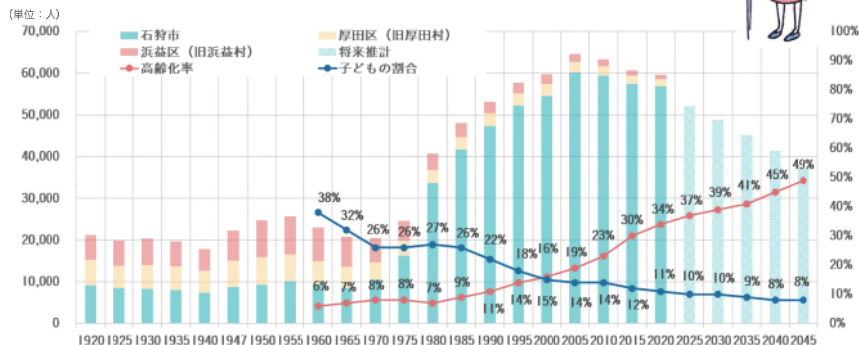
「基本施策」についても、戦略目標と連動し4年間延長を原則としますが、各施策に関連する個別計画により計画期間を別に設定する場合は、その期間を優先します。



どうして、「30年先」?

■長期的な人口動向(1920～2020)と将来推計(～2045)

※国勢調査及び国立社会保障・人口問題研究所推計値



石狩市は、1960年代に始まった団地造成や1970年代からの石狩湾新港・工業団地の開発とともに成長し、その後市村合併を経て、2000年代には人口6万人を超える都市となりました。その30～40年の間に、まちの様子や暮らしが大きく変わってきたように、少子高齢化や人口減少の進展、社会経済情勢の変化によっては、この先の30年は、もっと大きな変化の時代となるかも知れません。また、30年後を考えると、今、石狩市に暮らしている子どもたちは既に大人になっていて、現役世代の中心でまちづくりの主人公になっているのではないのでしょうか。このような視点から、第5期総合計画では長期的な展望として概ね30年後の未来を見据えることとしました。

※1 地域経営: 地域の様々な主体(市民・事業者・NPO・大学など)と市役所(行政)が連携し、地域資源の効果的な活用やまちの持続的な発展に向けた活動を進めること

※2 行政経営: 地方自治体における様々な施策や事業を、民間の優れた経営理念や経営手法を取り入れながら適切に管理・運営すること

みんなでつくる、 こんなまち・いしかり

30年後、「こんなまちになったらいいな」、「こんなまちをみんなで作りたいな」など、総合計画策定中にいただいた市民の意見をまとめてみました。



※1 6次産業化：第1次産業である農林水産業が、農林水産物の生産にとどまらず、それを原材料とした加工食品の製造・販売や観光農園のような地域資源を生かしたサービスなど、第2次産業や第3次産業にまで踏み込むこと
 ※2 新現役世代：審議会（分科会）の中で、知識や技能、経験を有する高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした
 ※3 シェアハウス：一つの家を複数の人と共有して暮らすこと。賃貸住居に比べれば安く、同居人との交流が自然と図れるというメリットがある
 ※4 環境負荷：人の活動が、人を取巻く環境に対して各種の干渉を生じ、自然に負荷を生じさせること

石狩 PRIDE 絆 環境



まちづくりの進め方

目指すまちの姿の実現に向けてどうするのか？

「住み続けたいまち・住みたいまち」=目指すまちの姿(創造、絆、環境)の実現に向けて、協働や連携、成長を原則としてまちづくりを進めていきます。

そして、まちづくりを進めていく過程(プロセス)の中で石狩PRIDEの醸成^{※1}を目指します。

※1 醸成:ある気運や状態などを徐々に作り出すこと

※2 まちづくりの分野:基本施策に示される、行政運営における暮らし・福祉・産業などの分野のこと

成長

まちづくりに関わる人や
地域が共に高めあい成長する

様々な取組が、市民や地域に広がり、人
や組織、地域が成長していくまちづくりを
進めていきます。

「住み続けたいまち・住みたいまち」

目指すまちの姿(将来像)

創造

絆

環境

達成度

連携

横断的な連携により
かけあわせてたくさんの効果を

まちづくりの分野^{※2}にとらわれず、関係する
人々や活動を横断的に連携しながらまち
づくりを進めていきます。

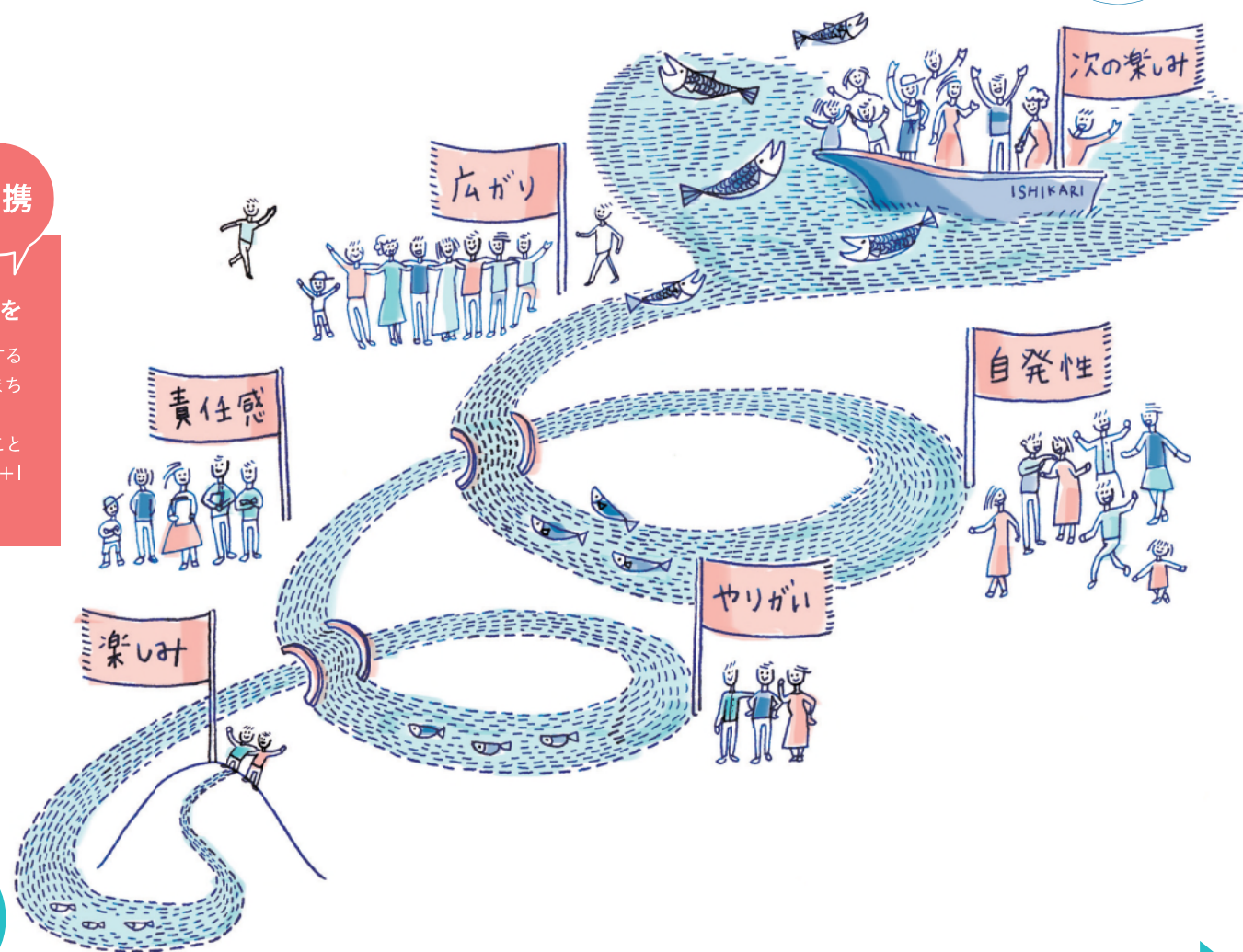
また、様々な事業や取組を連携すること
で、より効果が高まるようにします(1+1
は2ではなく、5や10にする)。

協働

市民と行政と一緒に

まちづくりは、市民だけで行うことはむず
かしいですし、行政だけで行うものでも
ありません。市民と行政がパートナーとなり、
ともに支え合う関係を大切にしなが
ら進めていきます。

いま



時間

総合計画を動かす



総合計画をつくるだけでなく、

しっかりと動かしていくことが大切です。

また、様々な社会環境の変化に

柔軟に対応しながら計画自体を進化させ、

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて

進んでいきます。



1

計画自体が進化していくしくみ

目指すまちの姿(将来像)の実現に向けて着実に進めるためには、計画をつくるだけでなく、しっかりと動かし、時代の変化に柔軟に対応しながら、計画自体を進化させていく必要があります。

そのため、これまでの縦割りの施策管理から大きく転換し、様々な事業や取組、分野が横断的に連携して進める戦略目標を設定して、市民とともに計画を動かしていきます。

市民が計画にかかわることで計画自体が進化するしくみを大切にして、まちづくりを進めます。

2

市民による市民のためのまちづくり(地域経営)のしくみ

市民がまちづくりに関心を持ち、まちづくり活動をはじめようとする意識を高め、まちのために一人でもできること、仲間と一緒にできることなど、市民が楽しみ、やりがいと誇りを感じながら、まちづくり活動に取り組むことができるしくみを通して、目標達成に向けて進めます。

3

市民目線での行政経営のしくみ

まちづくりを進める上で、市民が考え、自発的に進める取組などがしっかり実践につながるしくみを大切にします。また、「協働」の視点のもと、行政経営に市民の声が反映される市民目線でのまちづくりを進めます。



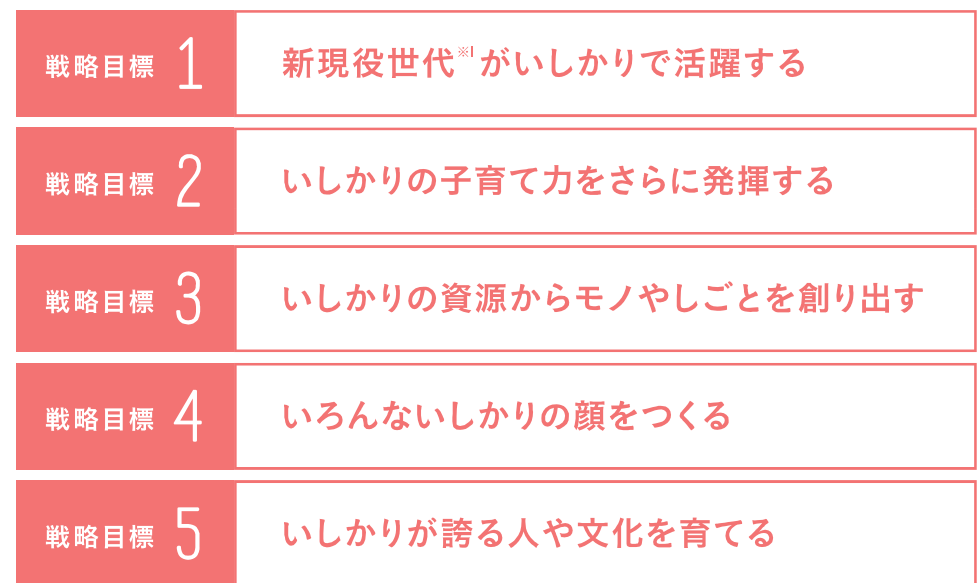
5つの戦略目標

市民の「健康」と「結束」でいしかりを動かす

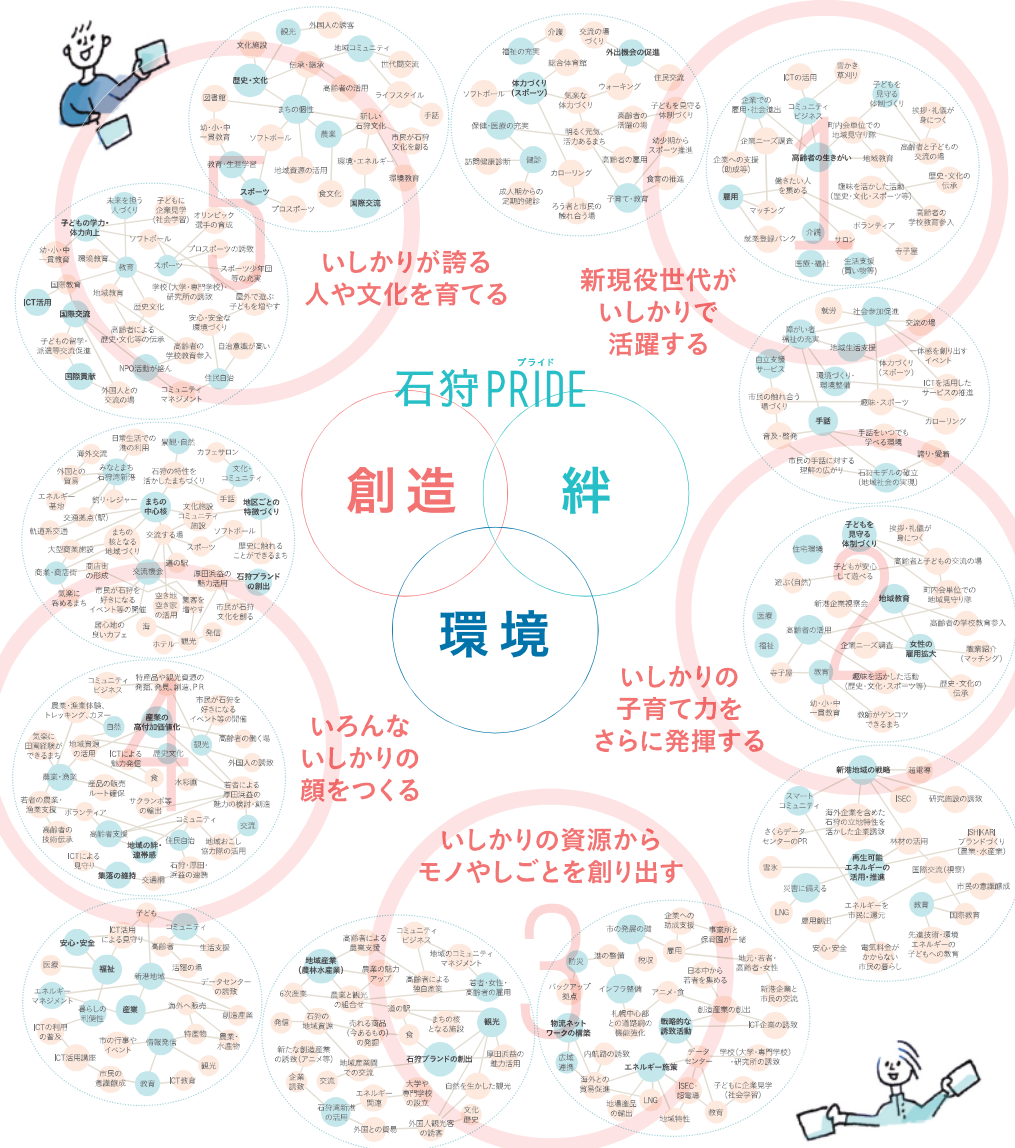
30年後の目指すまちの姿(将来像)を実現するためには、まちづくりの主役である市民一人ひとりの健康が何よりも大切です。さらに、市民が結束し、自ら進んで取り組むことが総合計画を動かしていくことにつながります。

そのため、市民の理解・共有を重視し、特に重点的に市民と協働で進めていく5つの戦略目標を掲げます。

この5つの戦略目標は、これからのいしかりが取り組むまちづくりの優先事項や戦略性を示すものであり、市民の結束なしでは決して進まないものです。



※「新現役世代」：審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした。



この5つの戦略目標は、まちづくりディスカッションや高校生ワークショップ、また、審議会での議論の中でいただいた多くの市民意見をもとに、いしかりが目指すまちの姿の実現のため、重点的に取り組まなければならないものを掲げたものです。

主な市民の意見(抜粋)

創造 (そうぞう)

- 日本中から若者を集める新しい産業を創出する。
- 子どもたちにいしかりを知ってもらう。子どもたちがいしかりについて知らないから郷土愛が育たず、流出する原因になっている。
- 今ある文化を大切にしながら、新たな文化を市民が創る。など

絆 (きずな)

- 人と人のふれ合いが優しいまちでありたい。
- 子・親・新規役世代が一緒に楽しめる場所づくり。
近所の大人が子どもに得意な事を教えたり、遊びを伝えたり、また、昔話を語りつづける場を設ける。
- 地域で新規役世代が「子ども見守り隊」を作り、ネットワーク化する。など

環境 (かんきょう)

- 自然の多い地域で住みたい。川・海の特徴、景観をもっと活かしたまち。
- 新港の企業と農林水産業を結びつけ、商品開発に力を入れ、石狩ブランドを強化する。
- 世界と競争ができる環境エネルギー都市づくり、など

石狩PRIDE (プライド)

- いしかりを全国にPRできるものがほしい。
- 住みたくなるまちづくり。
- 市民が自慢できるまち、いしかりが好きな市民が多いまち。など

知識や技能、経験のある新現役世代^{※1}を「人財^{※2}」として捉え、地域を元気にする中核として生涯健康で活躍するまちを目指します。

戦略目標の背景

急速な少子高齢化が進展する社会情勢の中、第1次ベビーブームに生まれた団塊の世代(1947年(昭和22年)～1949年(昭和24年))が皆65歳を超え、高齢者人口が大幅に増加し、高齢社会に拍車がかかっています。

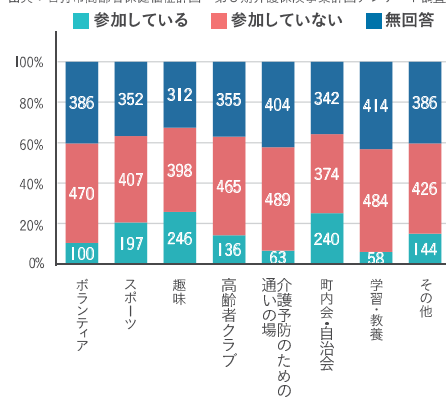
平成27年10月1日時点の高齢化率約30%が、令和2年10月1日時点で約34%になっており、約4%上昇しています。今後も高齢者が増加していく見込みの中、医療や介護などの社会保障費が増えていくことが懸念されます。

一方で、高齢者といっても、知識や技能、経験を有し、現役で活躍できる新現役世代が多くおり、地域の中核として、就業やボランティア活動など地域社会に関わりを持つことが、まちの活性化につながるものと考えます。

まちの「人財」である新現役世代が、地域社会に参加し、同じ気持ちの仲間と活動するとともにつながりを深め、やりがいを持てるまちが求められています。

■ 高齢者の社会参加の状況(一般高齢者)
～各種グループ・団体活動への参加～

出典：石狩市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画アンケート調査



「囲碁体験」

戦略目標のねらい

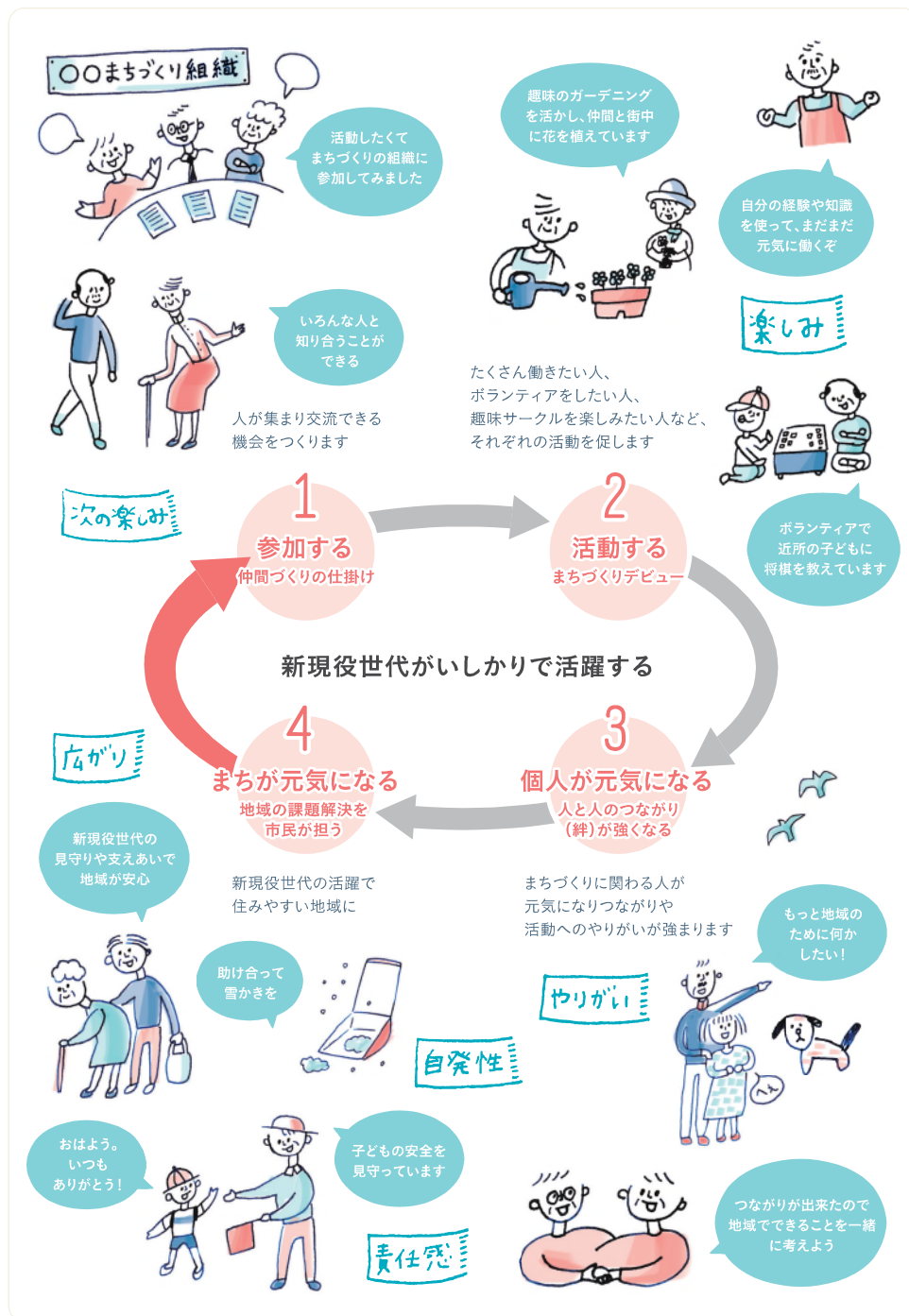
- 新現役世代が地域社会でやりがいを持つ
- 新現役世代がまちの原動力^{※3}になり、生涯活躍する
- 新現役世代が元気になる、そして、まちも元気になる

※1 新現役世代：審議会(分科会)の中で、知識や技能、経験を有する元気な高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした

※2 人財：様々な知識・経験を持っている人を、地域の活性化やまちづくりを進めるための貴重な「財産」と捉えた考え方

※3 原動力：物事の活動のもととなる力

※4 プロセス：物事を進める手順と過程。ここでは、戦略目標を進める取組の過程のイメージを示している



地域全体で子育て家庭や子どもの育ちを支え、子どもが安全かつ安心して学び、健やかに育つまちを目指します。

戦略目標の背景

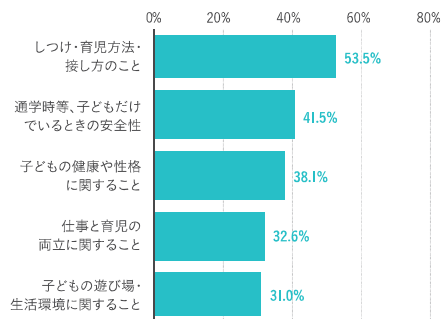
核家族化や都市化、地域のつながりの希薄化などにより、家族や地域の中で子育ての知恵や経験を共有することが難しく、子育てに周囲の手助けを求めにくくなっている状況があります。

そのような中、市ではこれまで子育て支援団体やNPO※1、子育てサークルなど多様な主体が協力しあい、親子同士の仲間づくりの場の充実や、子ども向けイベントの充実など、子育てしやすい環境づくりに取組んできましたが、平成25年に実施した、子育て支援に関するニーズ調査によると、子育てする中で、経済的な面以外に不安に思うことは、「しつけ・育児方法・接し方のこと」、「通学時等、子どもだけであるときの安全性」といったことへの不安が挙げられています。

地域の大人と子ども、子育て家庭と地域がつながる機会を増やすことで、子どもが安全かつ安心して学び育つことや、互いに支えあい、地域が幸せになることが求められています。

■子育てする中で、経済的な面以外に不安に思うこと ～回答の多かったベスト5～

出典：石狩市子ども・子育て支援事業計画策定のためのニーズ調査



「昔の遊び体験」

戦略目標のねらい

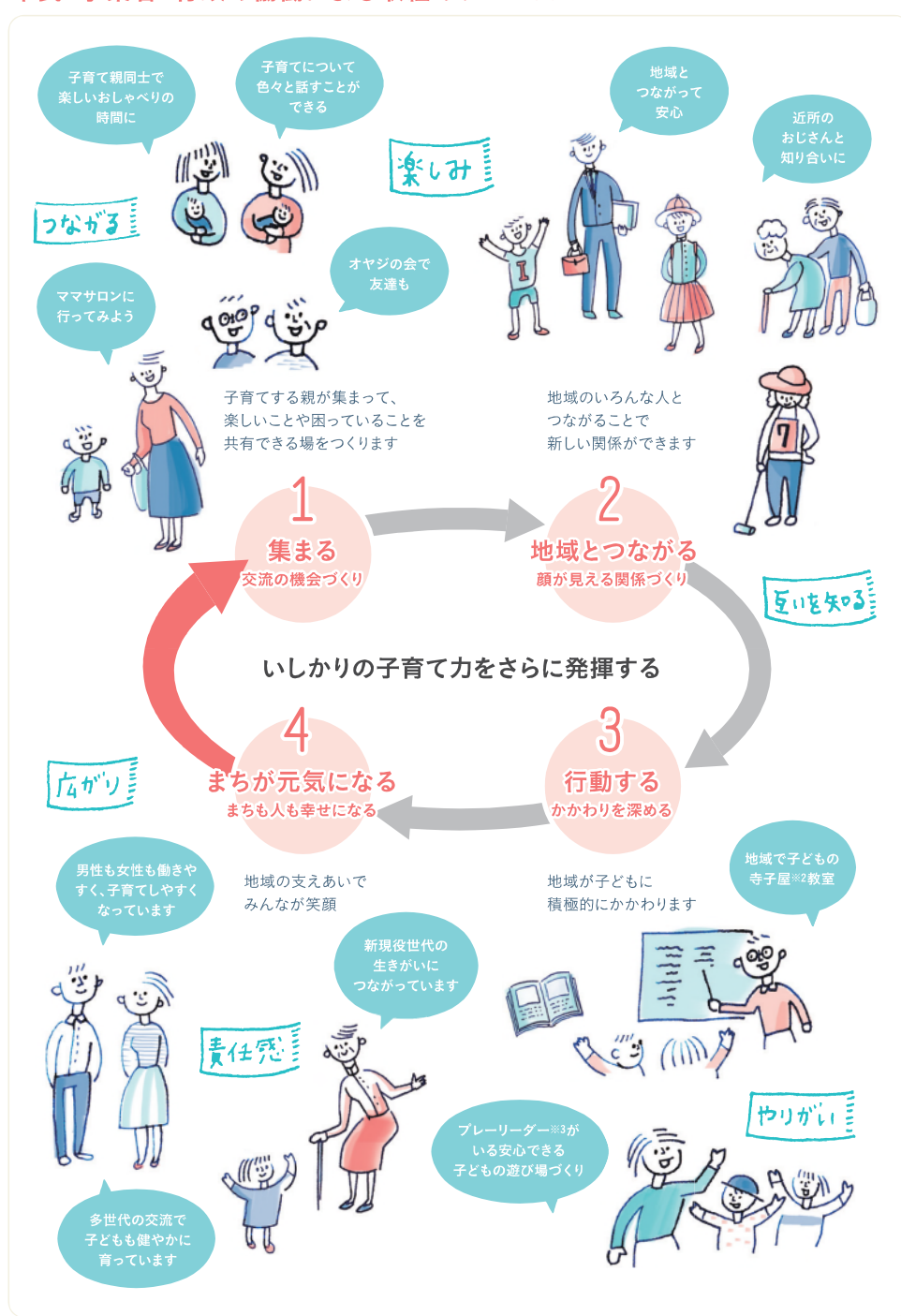
- 地域全体で子育て家庭や子どもの育ちを支える、見守る
- 男性も女性も安心して仕事と子育てを両立できる環境をつくる
- 支えあうことにより、幸せになる地域をつくる

※1 NPO：民間非営利団体 (non-profit organization) の略称。様々な社会貢献活動(事業も含む)を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称

※2 寺子屋：地域人材を活用した放課後における学習活動や体験活動

※3 プレーリーダー：子どもと一緒に遊ぶ大人や若者たちのこと。子どもといっしょに思いきり遊んだり、遊びのきっかけを作ったり、子どもの興味や関心、遊び心を引き出す存在の人

市民・事業者・行政の協働による取組のプロセス



いしかりの資源からモノやしごとを創り出す

いしかりの資源や魅力、また、石狩湾新港地域が持つポテンシャル^{※1}をさらに高め、新たな産業や地域ブランド^{※2}の創出など、地域経済が活性化するまちを目指します。

戦略目標の背景

人口減少・高齢化社会の到来による生産年齢人口の減少、農業・漁業などの地域間競争の激化、さらにはグローバル社会^{※3}への進展などにより、地域の産業や経済に、新しい価値を見出すことが重要となっています。

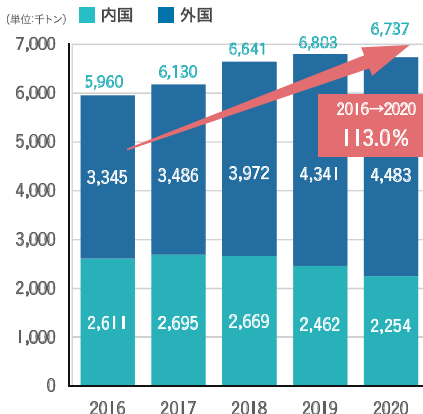
いしかりには、優れた自然環境や豊富な農水産物などの魅力、また、北海道と世界をダイレクトに結ぶ国際貿易港である石狩湾新港を核に600社以上の様々な分野の企業が集積する石狩湾新港地域を有しており、1次、2次、3次産業が揃っているまちです。

このような条件を活かし、いしかりにあるたくさんの資源をさらに発掘し、創意工夫のもと地域の人や産業の連携によりブランド力を磨いていくことで、地域資源や魅力をさらに高めることが大切です。

そして、新たな産業や雇用、地域ブランドの創出といった新しい価値を見出し、さらに、地域内で循環しながら市民が支えていくことで、まちに活力を生み出していくことが求められています。

■ 石狩湾新港 取扱貨物量の推移(内外国別)

出典：石狩湾新港管理組合



「石狩湾新港地域 操業企業」

戦略目標のねらい

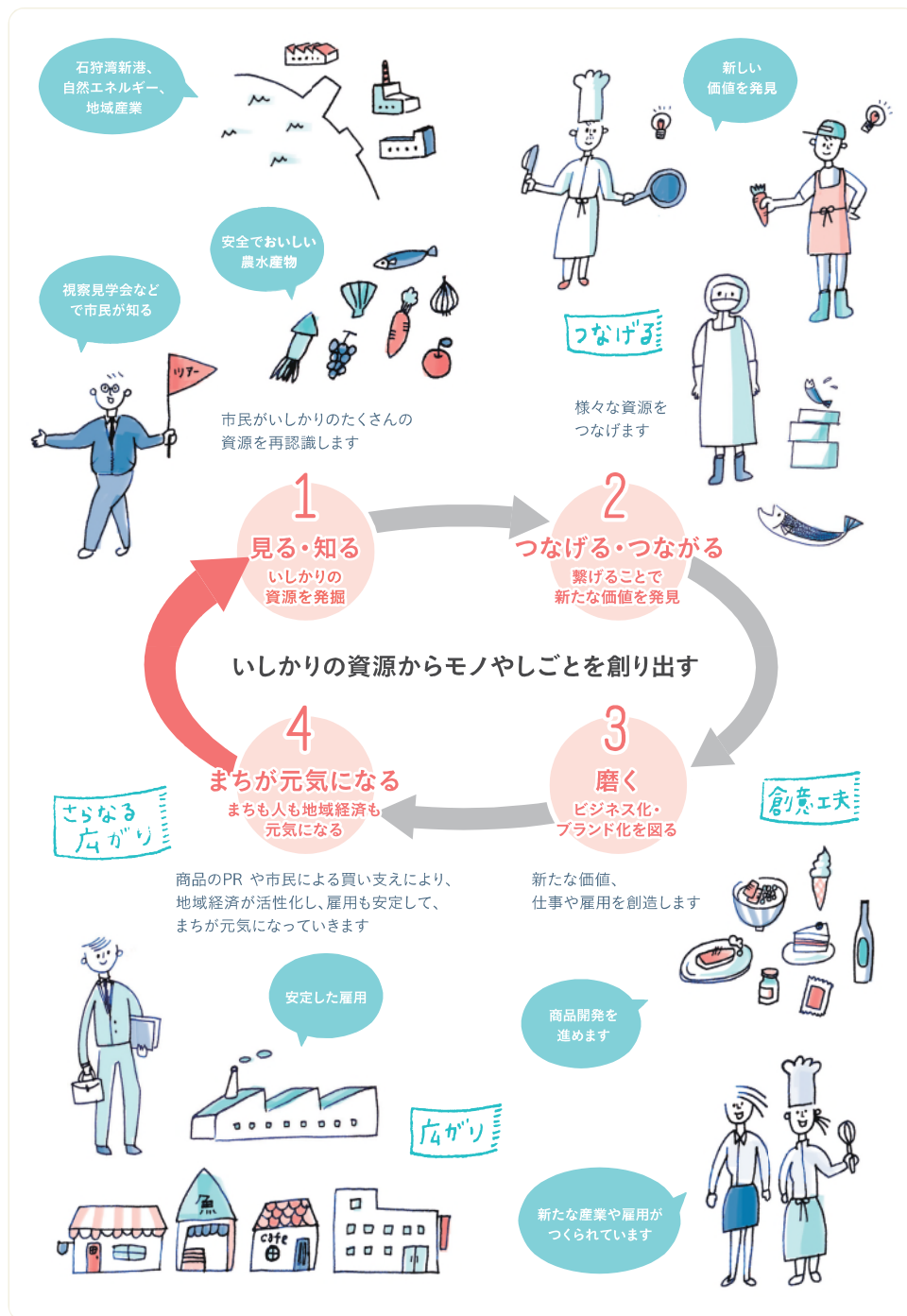
- いしかりならではの新たな産業、地域ブランドを創出する
- 新たな雇用を生み出す
- 地域経済を活性化し、地域内で循環させる

※1 ポテンシャル：潜在的な能力、可能性として持つ力

※2 地域ブランド：地域に存在する自然、歴史・文化、食、観光地、特産品、産業などの地域資源の「付加価値」を高め、他の地域との差別化したイメージ

※3 グローバル社会：国や地域という境界を越えて世界規模での結びつきが強くなる社会

市民・事業者・行政の協働による取組のプロセス



市民がまちの魅力や地域の特徴を発見し、自らの手で「いしかりの顔」として育てあげ、自慢できる(誇りとなる)まちを目指します。

戦略目標の背景

いしかりには、地域の特徴や様々な魅力がたくさんありますが、まちの中心核やまちの顔となるイメージが弱いといった面が見られます。

市民討議会や総合計画策定審議会などにおいても、いしかりへの愛着を持つ一方で、「いしかりの中心がわからない」「いしかり出身と堂々と言えない」「鮭以外にも名物はあるが自慢できない」といった意見が出されています。

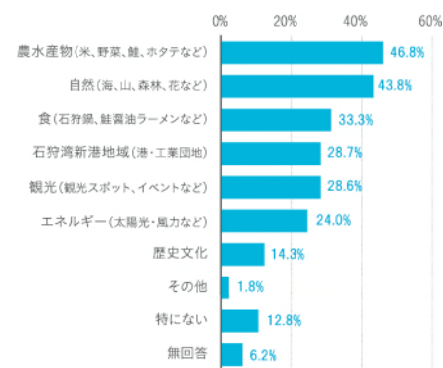
地域ごとの特徴を活かしながら、いろんなイメージを創り出し、「いしかりといえばこれ」という顔をつくっていくことが大切です。

そして、市民がまちの魅力や地域の特徴を発見・掘り起こし、自らの手で育てあげ、いしかりの魅力を自慢できる(誇りとなる)とともに、まちの魅力を広く発信し、道内・国内、さらには海外からの交流人口※1を増やしていくことが求められています。



■石狩市の魅力アップのためにもっと活用した方が良いと思う地域資源(複数回答)

出典:令和3年度市民意識に関するアンケート調査



「いしかり浜サンドパーク2014」砂像制作風景

戦略目標のねらい

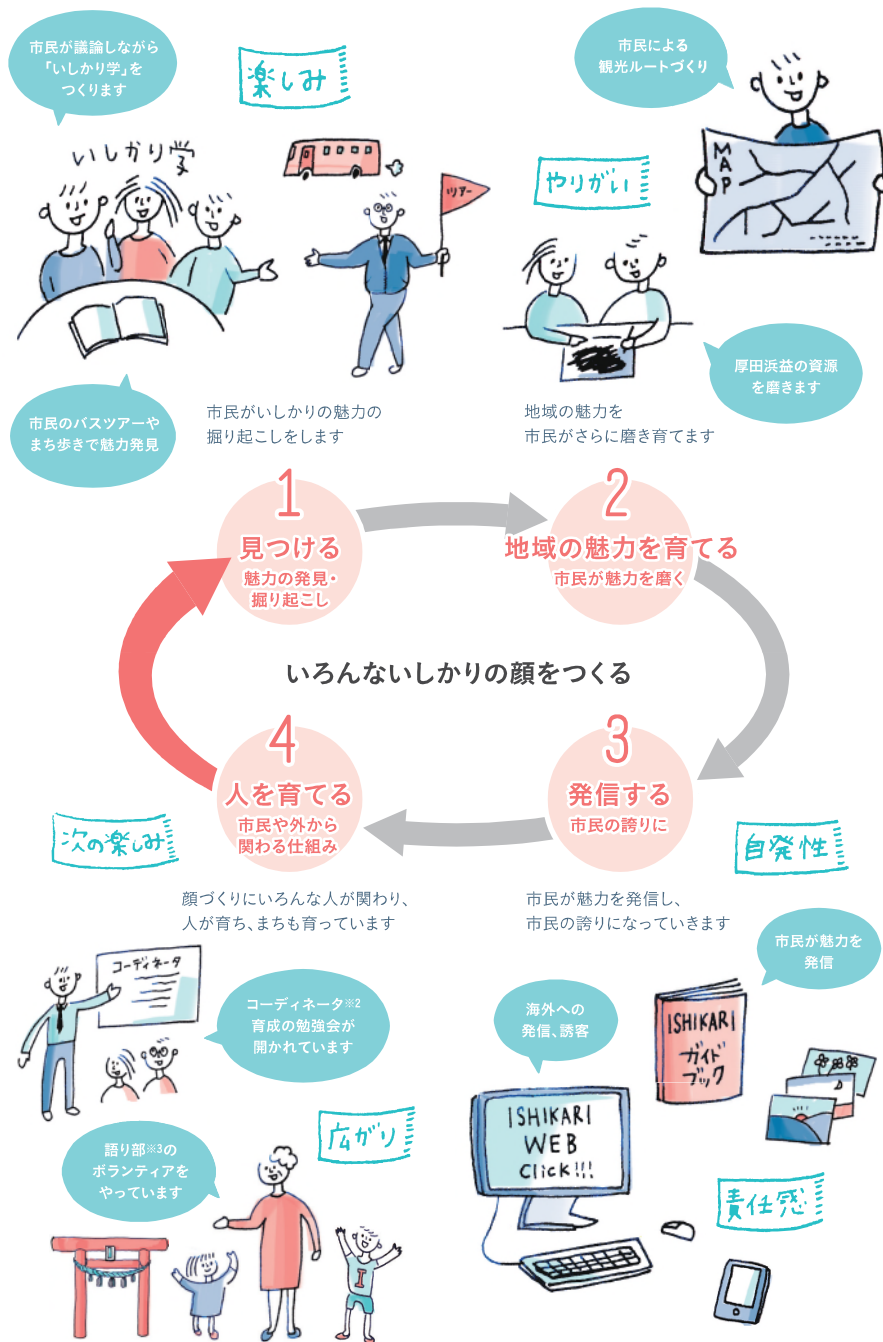
- 自慢できるいしかりの魅力を育てる
- 観光や移住など新たな人の動きをつくる
- まちの様々な魅力を高め、賑わいをつくる

※1 交流人口:その地域に訪れる、交流する人のこと

※2 コーディネータ:いろいろな要素を統合したり調整したりして、一つにまとめ上げる役割や職業

※3 語り部:地域の歴史や文化を解説したり、語り継いでいく人

市民・事業者・行政の協働による取組のプロセス



市民一人ひとりが、健康に生涯を通じていきいきと暮らすため、誇りや愛着を醸成し、世界に羽ばたく人材や新しい文化が育つまちを目指します。

戦略目標の背景

市はこれまで、サケ漁・ニシン漁で栄えた石狩川河口や日本海沿岸地域、札幌市に隣接するベッタタウンとして成長してきた花川団地、日本海側の物流・エネルギー集積の要である石狩湾新港と背後地の工業団地など、それぞれの地域でたくさんの歴史をつくりながら、いろんな特色をもった人や文化を育ててきました。

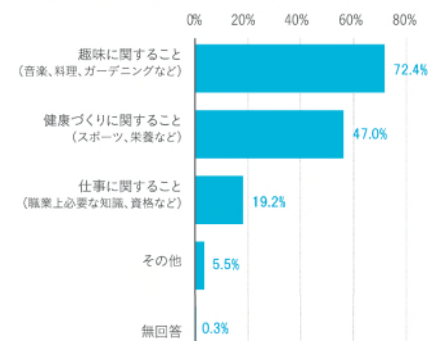
今後、趣味やスポーツ、芸術・文化活動、自己の能力開発など、市民のライフスタイルや日々の暮らしを豊かなものにしたいという欲求はますます多様化してくることが考えられます。

そのため、まちづくりの主役である市民自らが、日々の暮らしを豊かで楽しく、活気のあるものにする活動を行うことで、次の時代に向けた、新しい文化の醸成を進めていくことが求められています。また、そういった活動の中で、人が育ち世界の様々な舞台で活躍するといった大きな実を結ぶことが期待されます。

いしかりで育ったことに誇りを持ち、故郷に大きな愛着を持った「いしかり人」を育てていくことは、まちの大きな財産であり、次のまちづくりの原動力へとつながっていきます。

■ 自己の充実や生活向上のために普段学んでいること(複数回答)

出典：令和3年度市民意識に関するアンケート調査

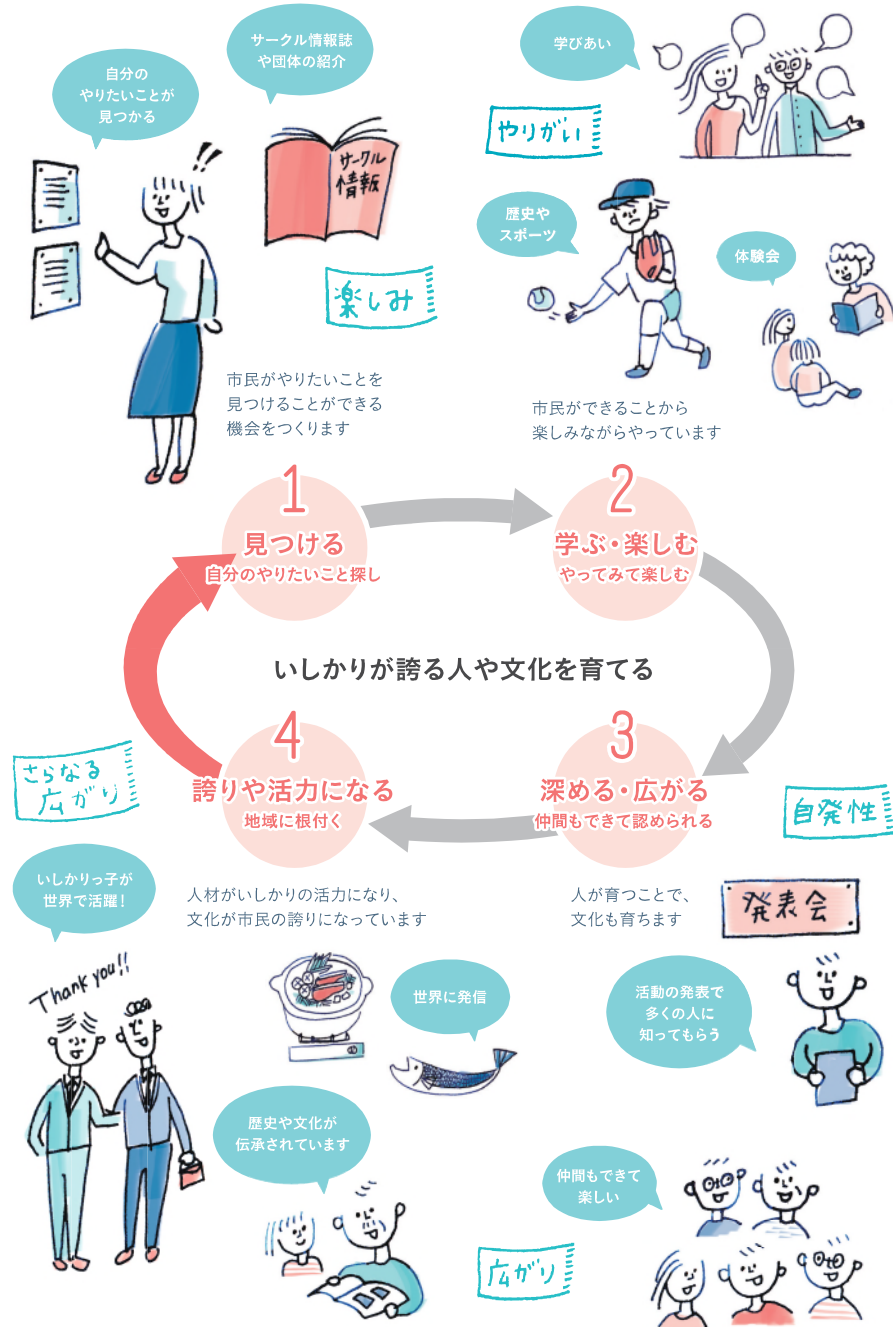


「ソフトボール教室」

戦略目標のねらい

- 市民の学びや楽しみの輪を広げ、いしかりの新しい文化を醸成する
- まちが人を育て、人がまちの誇りになる循環の仕組みをつくる
- 国際感覚豊かな人材を育てる

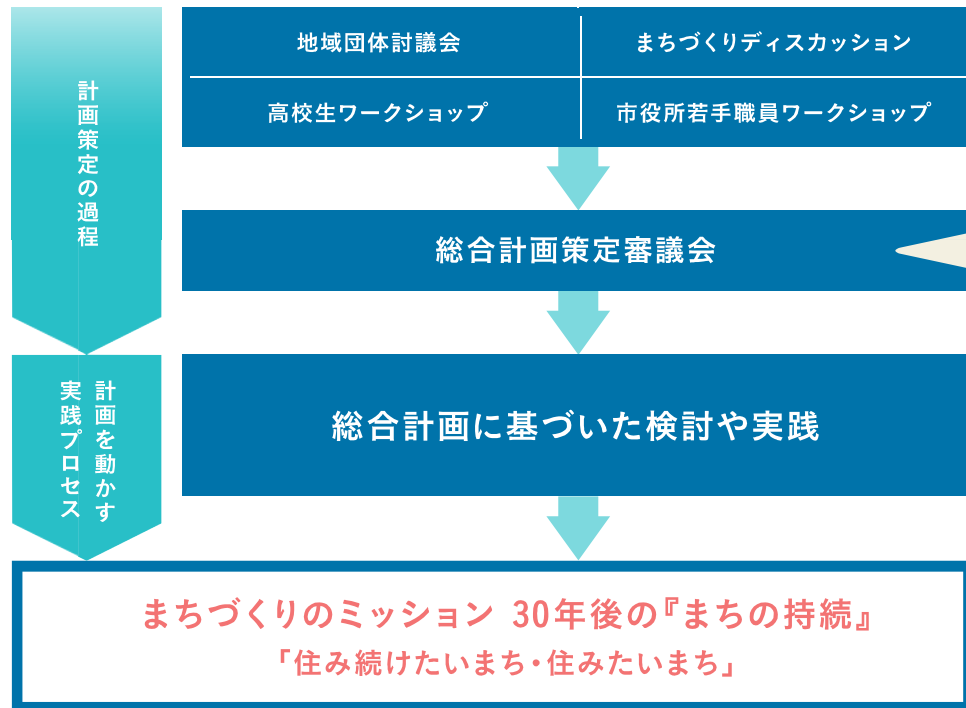
市民・事業者・行政の協働による取組のプロセス



戦略目標の実践のための プロセス^{※1}とアイデアカード

5つの戦略目標は、市民協働による視点から、審議会などを通して市民自らが議論し、取りまとめられたものです。その議論の過程では、様々なアイデアが出され、それらをアイデアカードとしてまとめています。

戦略目標の実現に向けた協働の実践は、時代やニーズ^{※2}に即して、このようなアイデアカードを組み合わせたり、あるいは、不足している部分を補ったり、見直したりしながら、市民・事業者・行政それぞれが考え、取り組んでいきます。



※1 プロセス：物事を進める手順と過程

※2 ニーズ：生活や経済活動を営む上での要求や需要

※3 新現役世代：審議会（分科会）の中で、知識や技能、経験を有する高齢者を「高齢者」ではなく、「新現役世代」と呼ぶこととした

※4 NPO：民間非営利団体（non-profit organization）の略称。様々な社会貢献活動（事業も含む）を行い、団体の構成員に対し収益を分配することを目的としない団体の総称

※5 マルシェ：フランス語で「市場」という意味

※6 アテンドサービス：移動などが困難な人に付き添ってお世話をすること

※7 ジビエ：狩猟で得た天然の野生鳥獣の食肉の意味（フランス語）。食肉として有効活用した料理や加工品の提供などの取組もある



まちづくりアイデアカード

《新現役世代の活躍》^{※3}

持続的なまちづくり組織をつくる

- 地域会議を発展させたNPO^{※4}化
- カフェやオフィスで集まる場を

「多世代が集う新しい受け皿」をつくる

- 楽しいテーマで集まる場づくり
- 子どもと高齢者の遊び

病院ボランティアサービス

- 病院ボランティアから収益を
- 自宅～病院～該当科へのアテンドサービス^{※6}（送迎も）

あなたが主役キャンペーン

- ～第2の人生はまちづくり～
- 「熟年市民の会（仮）」をつくる
- メリットや特典をつくる

市民バスツアー・まち歩き

- 市民がいしかりを知るためのバスツアーやまち歩きを実施（歴史や漁業、農業体験など）

「いしかり学」を学ぶ

- いしかりの歴史や文化などを「いしかり学」としてまとめる
- 市民カレッジなどと連携して学ぶ

厚田浜益の資源を磨く

- 厚田浜益の景観を磨く
- 北海道大学や藤女子大学と連携した街並み調査

食の魅力づくり

- 海産物のピザなどで北海道のイタリアとしてプロモーション
- エソシカを資源に鹿肉ジビエ^{※7}

審議会では「新現役世代の活躍」「いしかりの顔づくり」をテーマにアイデアカードをつくりました。

いしかりマルシェ^{※5}

- 企画、運営から市民や地域住民の手で実施
- 周りの人を呼び込みながら実施

いしかりポイント

- ポイント制の有償ボランティア制度をつくる
- 見守りや生活支援に還元

女性の活躍の機会づくり

- 女性が働く市民カフェをふやす
- 空き店舗・空家を使ったカフェ
- 目玉スイーツを考案する

I Road プロジェクト

- 市民によるおすすめルートの検討や発信
- ルート上に新たな魅力を創出

市民によるいしかり発信

- 美しい景色や素晴らしい資源を市民や海外客に発信
- HP で発信、動画コンテストなど

石狩鍋の食文化の伝承

- いしかりの「食文化」を伝承・発信
- 地元ならではの鮭の食べ方を伝承（さばき方なども）

いしかりLOVE 人づくり

- 田舎暮らしの体験ツアー実施
- 一次産業と連携してプログラムを造成

《いしかりの顔づくり》

基本施策

戦略目標を支える各分野の安定的な行政経営

目指すまちの姿(将来像)の実現のためには、5つの戦略目標に向けて進めるだけでなく、市民の暮らしや経済活動を支える総合的な施策(基本施策)についても、しっかりと実行していきます。

基本施策は6つの分野に分かれ、それぞれ関連する個別計画を推進することで安定的な行政運営を進めていくとともに、分野をまたがる戦略目標の推進に向けて、それぞれが相互に連携しながら取り組んでいくものです。

基本施策の考え方

持続的な都市基盤・機能の確保

都市や経済の基盤となるインフラ^{※1}について適切に整備・維持管理するとともに、市民の利便性と安全性を備えた都市機能や生活空間の確保を図ります。

(例) 公共施設の整備・修繕事業、産業基盤施設の整備、民間公的施設整備等への助成など

安定的な市民生活や経済活動を支える行政サービスの提供

防災・防犯への対策や、高齢化の進行に伴う医療・福祉サービスなど市民の安全・安心な暮らしや経済活動を支える行政サービスを提供します。

(例) 公共施設の運営・管理事業、各種社会保障制度の運用など

行財政の効果的なマネジメント^{※2}

厳しい財政状況の中で、将来像の実現のため戦略的に取り組むべき施策や事業に注力し、各施策や事業において高い成果を上げ続けることができるよう、効果的な行政活動のマネジメントを行います。

(例) 行政事務の管理的経費、各種個別計画の策定、一般会計から特別会計への繰出金など

【基本施策】

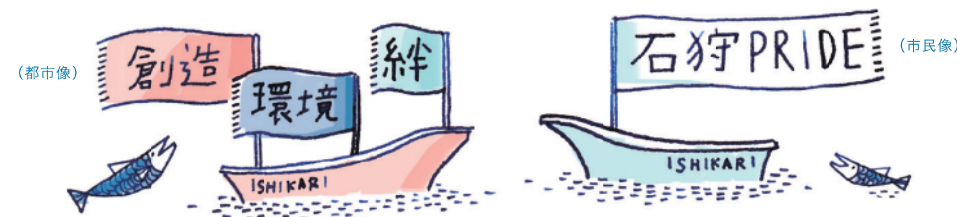
暮らし	1 都市基盤
	2 消防・防災
	3 上・下水道
	4 住環境
	5 公共交通
	6 生活安全
福祉	7 地域福祉
	8 高齢者福祉
	9 障がい者福祉
	10 子ども・子育て支援
	11 保健・医療
産業	12 農林水産業
	13 商工業
	14 観光
	15 石狩湾新港地域
	16 雇用
環境	17 環境
	18 資源循環型社会
教育	19 生涯学習
	20 学校教育
	21 芸術・文化
	22 スポーツ・レクリエーション
	23 国内・国際交流
行財政	24 財政運営
	25 行政経営
	26 協働・市民参加

【まちづくりのミッション】

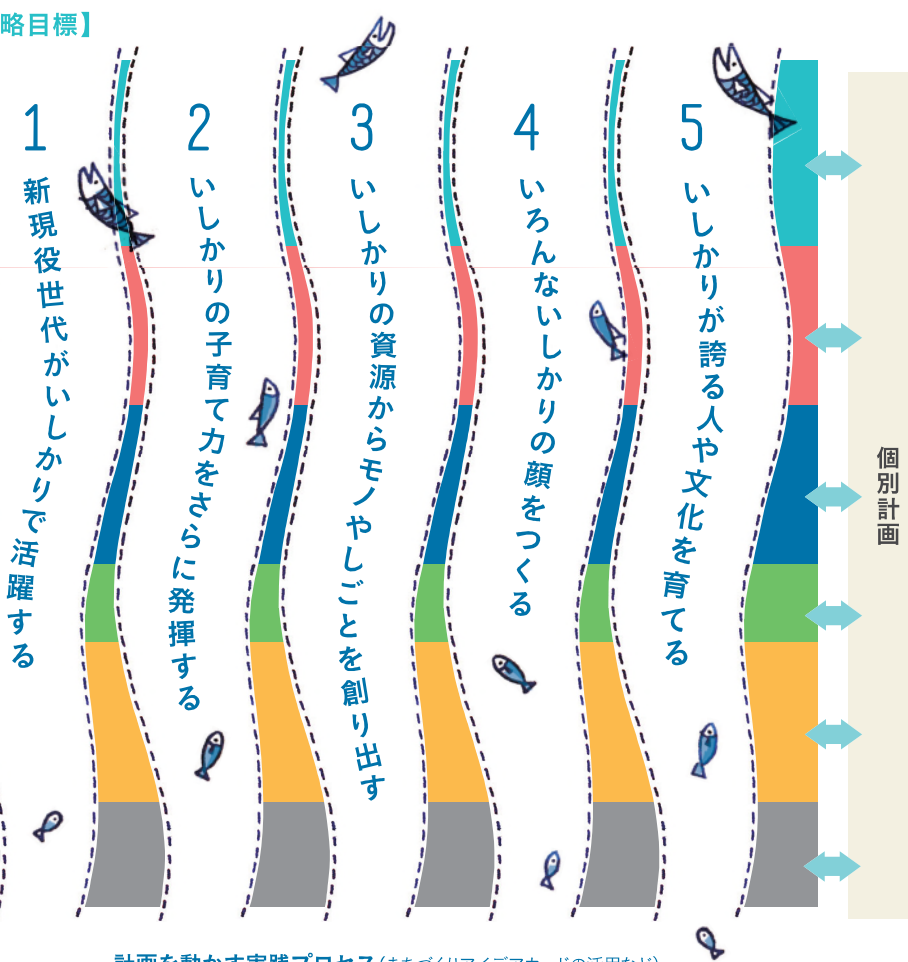
30年後の『まちの持続』

「このまちに住み続けたい」「このまちに住みたい」と思える魅力あるまちであり続ける

【目指すまちの姿(将来像)】



【戦略目標】



計画を動かす実践プロセス(まちづくりアイデアカードの活用など)

※1 インフラ:インフラストラクチャー(infrastructure)の略で、道路・通信・公共施設など産業や生活の基盤となる施設のこと

※2 マネジメント:様々な資源や資産・リスクなどを管理し、経営上の効果を最適化すること

各基本施策の方向性と関連する個別計画

暮らし

1 都市基盤

【基本施策の方向性】

市内の安全・快適な移動を確保するため、国道・道道を含む主要幹線道路や市街地の生活道路については、道路環境の改善に向けた適切な整備を推進するとともに、除排雪業務の効率化をはじめ、夏冬を通じた安定的な都市基盤の持続に努めます。

道路施設の老朽化に対しては、予防保全的な管理体制を確立していくため、計画的な修繕を進めます。土地利用については、市内各地域の特性を尊重しつつ、都市型・自然型など総合的な調整に努めながら、住み良さや魅力を追求する市街地の形成を図ります。

【前総合計画からの課題】

- ・主要幹線道路の計画的な整備
- ・老朽化道路の計画修繕

【個別計画】

- 橋梁長寿命化修繕計画
- 都市計画マスタープラン
- 立地適正化計画

暮らし

3 上・下水道

【基本施策の方向性】

水道水の安定供給のため、施設更新計画に基づき、老朽化施設の更新や耐震化を計画的に進めるとともに、水質検査や漏水対策などの確な事業運営に努めます。また、経営状況を定期的に見直し、効率的かつ健全な事業経営に努めます。

下水道事業については、事業計画区域内における雨水整備を継続するとともに、既存施設の長寿命化のため計画的な更新を進めるほか、下水道事業の経営安定化や貴重な水資源の循環型社会に向けて水洗化の普及啓発に努めます。下水道事業計画のない市域居住地においては、地域の水資源の保全を図るため個別排水処理施設の整備を推進します。

【前総合計画からの課題】

- ・既存施設の老朽化への対応
- ・個別排水処理施設に係る事業エリアの拡大

【個別計画】

- 石狩市新水道ビジョン
- 石狩市水道事業経営戦略
- 石狩市水道施設更新計画
- 石狩市水道事業水質検査計画
- 石狩市公共工事コスト構造改善に関する行動方針
- 第2期石狩市下水道ビジョン
- 石狩市下水道事業経営戦略
- 石狩市公共下水道事業計画
- 石狩市生活排水処理基本計画



暮らし

2 消防・防災

【基本施策の方向性】

安全・安心な日常生活への市民ニーズの高まりや石狩湾新港地域へのエネルギー関連企業の集積が進んでいるなど、突発的な事故・災害等に対する必要な備えは複雑・多様化しており、それらの状況に的確に対応できる消防・防災体制を強化していきます。

また、市民の生命、身体、財産を災害から守る体制を整え、災害時の被害を最小化する「減災」の考えを基本として、市民、事業者、行政がそれぞれの役割を果たしながら、災害に強いまちづくり・人づくりを進めます。

【前総合計画からの課題】

- ・地域住民による自主防災組織化が困難な地域への対応
- ・石狩湾新港地域における消防力の強化

【個別計画】

- 石狩市強靱化計画
- 石狩市危機管理方針
- 石狩市地域防災計画
- 石狩市地区防災ガイド
- 石狩市国民保護計画
- 石狩市業務継続計画(BCP)
- 石狩市新型インフルエンザ等対策行動計画
- 石狩市災害廃棄物処理計画

暮らし

4 住環境

【基本施策の方向性】

市営住宅については、長期的な視点に立って適正な管理戸数規模の確保と老朽化による不良ストックの解消や長寿命化を計画的に進めます。

既存市街地の住環境は、耐震化の促進を図るなど、総合的な居住環境の向上に努めるとともに、少子化の進展や本格的な超高齢社会の到来により、今後ますます空き家が増加する傾向にあると予想されることから、未利用宅地と併せ、市内不動産の活用を促進する方策の検討を進めます。

【前総合計画からの課題】

- ・市営住宅の老朽化への対応

【個別計画】

- 住生活基本計画
- 石狩市除雪機械車両更新・増強計画
- 石狩市営住宅等ストックマネジメント計画
- 石狩市空家等対策計画
- 石狩市耐震改修促進計画

【基本施策の方向性】

市民の身近な公共交通機関である路線バスについて、将来にわたり存続が図られるよう関係機関との連携に努めるとともに、市民の利用を促す啓発活動に取り組みます。

長年の課題である、本市と札幌市とをつなぐ軌道系交通機関については、長期的な展望のもとで、将来的な利用ニーズの動向や他の公共交通機関との関係性に配慮しながら、実現可能性について検討を継続します。

超高齢社会の進展を背景に、医療機関の受診や日用品購入など日常的な移動が困難な市民に対する生活の足の確保がますます重要になってきており、過疎地域や市街地それぞれにおける移動支援の在り方の検討を進めます。

【前総合計画からの課題】

- ・収益性の低い地域におけるバス路線の維持
- ・軌道系交通機関の検討

【前総合計画からの課題】

- 石狩市地域公共交通網形成計画
- 石狩市自転車活用推進計画



【基本施策の方向性】

市民が安全や安心を実感しながら暮らすことができる地域社会の持続を図るため、防犯活動の促進や犯罪が発生しにくい環境の整備に努めるとともに、交通事故や犯罪の未然防止を図るため、警察署の誘致活動を推進します。

交通安全については、市民、事業者、行政の連携による地域ぐるみの活動を展開するほか、市が主体となって設置することが可能な交通安全施設の設置による効果的な交通安全対策に努めます。

安心できる消費生活を実現するため、消費者への情報提供や啓発を進めるとともに、消費者相談対応者の人材育成や関係機関との連携を強めるなど、相談体制の充実に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・街路灯組合の経営支援や省エネ対策のためのLED化促進
- ・地域住民の要望に応える計画的な交通安全施設の設置
- ・インターネット社会に対応した消費生活相談体制の整備

【基本施策の方向性】

地域社会における福祉的課題を解決し、誰もが健康でしあわせに暮らせる地域社会を実現するため、住民一人ひとりの努力(自助)、住民同士の相互扶助(共助)、公的な制度(公助)の連携や、住民相互の支え合いの機能(地域力)の向上に努めます。

地域福祉の推進の原動力である、ボランティア活動の活性化に資する取組を推進します。

生活困窮者が必要な支援を受けながら、自立して安定的な生活を送ることができるよう、相談・支援体制の充実を図るとともに、生活保護制度の適切な運用に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・地域福祉への理解向上

【個別計画】

- 第4次石狩市地域福祉計画「石狩りんくるプラン」

【基本施策の方向性】

高齢者が住み慣れた地域や家庭で安心して過ごせるよう、健康づくりや介護予防、見守りなどの支援体制の充実を図ります。

また、高齢者が元気で生きがいのあるライフスタイルを築けるよう、社会との関わりを積極的に持つことができる環境の整備に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・在宅高齢者生活支援事業(除雪・緊急通報等)サービスの拡充
- ・高齢者向けサロン事業の拡大

【個別計画】

- 石狩市高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画

福祉

9 障がい者福祉

【基本施策の方向性】

障がいを持つ市民が、障がいの種別や程度にかかわらず、地域住民の一員として地域社会と関わりを持ちながら暮らす共生の確立に向けて、各種福祉サービスの運用や日常生活・社会生活を総合的に支援する取組を推進します。

手話を使用する市民が「言語である手話を使って心豊かに暮らす」という理解が広がる地域社会の実現に向けて、市民が手話に触れる機会の醸成や手話をいつでも学べる環境づくりを進めます。

【前総合計画からの課題】

- ・手話通訳者の不足
- ・潜在的な発達障がい児の早期発見と療育

【個別計画】

- 石狩市障がい者福祉計画（第4期障がい者計画、第6期障がい福祉計画、第2期障がい児福祉計画）

福祉

10 子ども・子育て支援

【基本施策の方向性】

未来の石狩を担う子どもたちが、心身ともに健やかに育つ環境を整えていくとともに、子どもを産み育てる不安や負担感を軽減するための取組を推進します。

また、子どもの心身の発達に影響を及ぼす児童虐待やいじめ等の様々な問題に対応し、成長過程のすべての子どもたちが安心・安全に暮らし、一人ひとりの個性と人格が尊重されるような地域社会の確立を目指します。

【前総合計画からの課題】

- ・子育て支援の充実と更なる質の向上
- ・虐待者に対する虐待予防の取組

【個別計画】

- 石狩市子どもビジョン「子ども・子育て支援事業計画」、「次世代育成支援対策推進行動計画」、「母子保健計画」、「子ども・若者計画」、「子どもの貧困対策計画」、「母子家庭等及び寡婦自立促進計画」
- 石狩市教育プラン
- 第2期石狩市食育推進計画

福祉

11 保健・医療

【基本施策の方向性】

子どもから高齢者まで、市民が生活の質を高めながら健康寿命を延ばし、心豊かな生活を送ることができるよう、各々のライフステージに応じた健康づくりの支援や食育、一次予防の推進を図るとともに、医療体制の充実により、安心して健やかに暮らせるまちを目指します。

【前総合計画からの課題】

- ・保健師や栄養士による健康教育や相談事業の参加者の減少
- ・厚田区及び浜益区における医療機関の安定的な経営確保

【個別計画】

- 石狩市健康づくり計画（第2次）
- 石狩市自殺対策行動計画



産業

12 農林水産業

【基本施策の方向性】

地域の特色や資源を活かした農林水産業の活性化を図り、安全・安心・新鮮な地場産品の提供や生産者の経営安定化を進め、6次産業化の取組を支援するとともに、札幌近郊の魅力ある一次産業の確立を目指します。

農畜産業、林業及び水産業の生産基盤となる施設の整備や計画的な更新管理に努めるとともに、森林の有する多面的機能が発揮される森林づくりによる森林の適正管理を進めます。

【前総合計画からの課題】

- ・地場農産物の市外PR展開
- ・海獣被害に対する制度創設
- ・高齢化による漁業の衰退

【個別計画】

- 第5期石狩市農業振興計画
- 農村滞在型余暇活動機能整備計画
- 石狩市農業振興地域整備計画
- 石狩市鳥獣被害防止計画
- 石狩市酪農・肉用牛生産近代化計画
- 石狩市林道施設長寿命化計画
- 石狩市特定間伐等促進計画
- 石狩市森林整備計画
- 第3期石狩市漁業振興計画

【基本施策の方向性】

多様化する消費者ニーズに対応し、地域特性を活かした商業振興の取組や豊富な地域資源を活かした創業・起業を支援することにより、モノづくり産業の推進や地域ブランド力の向上に努めます。

また、地元中小事業者の経営安定化や既存商店街の環境整備に努め、まちの活力や賑わいづくりを進めます。

【前総合計画からの課題】

・商工会議所及び商工会会員数の減少

【個別計画】

- 第5次石狩市地場企業等活性化計画
- 石狩市導入促進基本計画
- 石狩市創業支援等事業計画
- 地域未来投資促進法に基づく基本計画



【基本施策の方向性】

美しい自然景観や豊富な食材、地域固有の文化・歴史など恵まれた地域資源を活用して、市民や関係機関の連携により、石狩市の観光スタイルの開発や確立を推進し、魅力ある観光地づくりや観光で地域が潤う仕組みの構築を進めます。

【前総合計画からの課題】

・観光客入込数がほぼ横ばいである

【個別計画】

- 第3次石狩市観光振興計画
- 第5次石狩市地場企業等活性化計画

【基本施策の方向性】

国際貿易港である石狩湾新港を核とする石狩湾新港地域は、本市の税収や雇用を支え、経済的な価値を創出するとともに、本市の持続的な発展を支える重要な地域であり、港湾機能のさらなる充実・強化を図り、地域全体がより高度な「複合産業空間」として、道内の経済基盤の強化に貢献することにより、安定的な市民生活を支える臨海産業拠点の形成を目指します。

また、市内約70kmに及ぶ海岸線における海難事故への迅速な対応をはじめ、LNG船やチップ船など大型船舶の航行の安全確保を図るため、石狩湾新港への海上保安官署の設置について関係機関への働きかけに努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・新たな定期航路、RORO船（フェリー型貨物船）等の就航に向けた誘致活動
- ・石狩湾新港地域内のスマートファクトリー化に向けた取組
- ・データセンターの集積
- ・札幌中心部との円滑な物資輸送に資する道路網の強化

【個別計画】

- 石狩市水素戦略構想
- 石狩市における再エネエリア設定を軸とした地産エネルギー活用マスタープラン

【基本施策の方向性】

市民が安心して働き、経済的に安定した暮らしを営むことができるよう、雇用環境の確保や就業機会の拡大を図り、勤労意欲の向上に努めます。

また、少子高齢化への対応や市民の勤労意欲に応える雇用施策を推進するため、関係機関と連携し、就業支援が必要な世代への雇用機会の充実に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・ジョブガイドいしかりと連携した就業支援の拡充
- ・労働環境の整備促進

【基本施策の方向性】

本市の雄大な自然環境や緑豊かな景観、居住環境の保全に努め、子どもから高齢者まで、すべての市民に憩いや安らぎを享受する都市空間の確保に努めるとともに、公害を防止し、健康で安全な市民生活の維持に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・海浜植物保護の在り方の検討
- ・再生可能エネルギーの普及促進
- ・公園施設の長寿命化
- ・あつたふるさとの森構想の推進



【個別計画】

- 第3次石狩市環境基本計画
- 石狩市地球温暖化対策推進計画【事務事業編】、【区域施策編】
- 石狩市グリーン購入推進方針
- 石狩市電力の調達に係る環境配慮契約方針
- 緑の基本計画
- 石狩市公園施設長寿命化計画

【基本施策の方向性】

市民、事業者、行政の協働により、モノを大切にしながら循環させて賢く使う暮らしの実現のため、市民一人ひとりのライフスタイルの見直しやごみの発生抑制、リサイクルなどを進め、環境に配慮した資源循環型社会の確立を目指します。

【前総合計画からの課題】

- ・家庭系「紙ごみ・生ごみ」のリサイクル資源化

【個別計画】

- 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
- 一般廃棄物処理実施計画
- 第10期石狩市分別収集計画

【基本施策の方向性】

子どもから高齢者までの幅広い市民が、生涯を通じて、いつでも、どこでも、自由に学びの機会を選択し、その成果を様々な場面で生かすことができる生涯学習社会の実現を目指すことにより、個人が心豊かで充実した人生を送り、一人ひとりの活動が地域社会全体に生かされる「地域で育ち・学び・生きる教育」を推進します。

【前総合計画からの課題】

- ・いしかり市民カレッジの拡充
- ・生涯学習講座など学習機会の提供に関するボランティアやリーダーの発掘と養成

【個別計画】

- 石狩市教育プラン
- 石狩市子どもの読書活動推進計画
- 石狩市民図書館ビジョン

【基本施策の方向性】

子どもたちに「確かな学力」とあわせて「豊かな心」と「健やかな体」をバランスよく育むことを目指し、基礎的・基本的な知識や技能の習得を図り、それらを活用しながら学ぶ力を高め、学ぶ楽しさや喜びが実感できる学習活動を推進するとともに、人間尊重、国際理解、環境問題、情報化などの社会変化に的確に対応する「生きる力」を育てる教育を推進します。

また、事故や犯罪から子どもたちを守る安全対策や、人口減少社会を見据えた学校施設の適正規模の確保と配置、施設や設備の老朽化対応等、安全安心な教育環境の維持・整備を図ります。

【前総合計画からの課題】

- ・外部指導者活用事業など人的支援の拡充
- ・教育ICT環境の整備
- ・学校における食育の推進
- ・特別支援教育の充実
- ・学校施設の整備
- ・学校図書館の整備

【個別計画】

- 石狩市教育プラン
- 石狩市学校施設長寿命化計画

【基本施策の方向性】

質の高い個性的な文化の創造を図るため、多様な芸術文化に触れ、創作活動への支援を図るとともに、「心のふるさと」としての地域を再認識し、新たな地域文化の創造を目指した環境づくりを進めます。郷土への理解と愛着を深め、文化・伝統を継承するため、文化財を適切に保護・保存し、その活用を図るとともに、ふるさを学ぶ機会や資料の充実を図ります。

【前総合計画からの課題】

・地域の伝統文化の記録・保存

【個別計画】

○石狩市教育プラン

【基本施策の方向性】

市民が心身ともに健康でいきいきと過ごし、充実した生活を送るため、自己に適したスポーツ・レクリエーションを継続的に実践し、健康の増進に努めていくことができる生涯スポーツ社会の実現に向けて、スポーツ・レクリエーション機会の充実や環境整備に努めます。

【前総合計画からの課題】

・ウォーキングサポーターの育成と自主組織化
・総合体育館建設の調査・研究

【個別計画】

○石狩市健康づくり計画(第2次)



【基本施策の方向性】

姉妹都市や友好都市をはじめ、国内外の様々な地域との交流を通じて、多くの市民が多彩な文化や価値観に触れる機会の提供に努め、相互理解を深めることや国際協力の意識を醸成するとともに、石狩市の文化や石狩らしさの情報発信、新しい文化を創造する市民力の向上を図ります。

【前総合計画からの課題】

・積極的に交流活動に関わる人材の発掘と仕組みづくり
・具体的な目的や成果を明確にした交流事業の検討

【基本施策の方向性】

直面する少子高齢化や経済グローバル化などによる、行政運営上の様々な課題に対して適切かつ機動的に対応できる財政運営を持続するため、市債残高の縮減や市債発行の抑制、基金規模の確保などによる財政基盤の強化、経常コストの低減・削減や積極的な財源確保などによる収支構造の改善を重視した財政健全化の取組を推進します。

また、かつて急速に整備を進めてきた公共施設等が一斉に更新期を迎えていることから、可能な限り将来世代に負担を残さない、効率的・効果的な公共施設等の配置・規模など公共施設等マネジメントの徹底を図ります。

【前総合計画からの課題】

・公共施設等の老朽化への対応(延命化、統廃合)

【個別計画】

○石狩市財政運営指針(第2期)
○石狩市公共施設等総合管理計画
○石狩市公共施設等総合管理計画第2期実施計画
○石狩市公共施設等総合管理計画個別施設計画
○市有財産利活用基本計画
○第3期石狩市国民健康保険特定健康診査等実施計画
○新市建設計画「合併まちづくりプラン」
○石狩市過疎地域持続的発展市町村計画

【基本施策の方向性】

複雑・多様化する行政ニーズに的確に対応する施策・事務事業の見直しやICT(情報通信技術)の活用と電子自治体の推進、行政組織のスリム化を進めるとともに、職員の意識改革や資質向上、能力開発などまちづくりへの意欲と行動力を兼ね備えた人材育成に努め、分権社会に対応する行政経営を推進します。

また、人口減少社会においては札幌圏・道央圏など近隣市町村との密接な連携による政策展開について積極的な検討と実践を推進します。

市民からの意見や提案を効果的に反映するまちづくりを進めるため、広報・広聴活動の充実や行政と市民の情報共有を推進します。

【前総合計画からの課題】

・行政課題に対する近隣市町村等との連携拡大

【個別計画】

- 石狩市DX推進計画
- 石狩市DX推進指針
- 石狩市行政改革大綱2026
- 石狩市行政改革2026実施計画
- 石狩市教育大綱
- 石狩市立学校における働き方改革推進計画(第2期)

【基本施策の方向性】

市民、事業者、行政が、まちづくりのパートナーとしての意識を高め、互いの信頼関係を築きながら、市民が主体となったまちづくりの取組を推進します。

また、少子高齢化や人口減少社会において、存続が難しくなっている町内会組織をはじめ、市民レベルのまちづくり活動に対する支援・育成を推進します。

ライフスタイルや価値観の多様化に対応し、男女が共に社会のあらゆる分野の活動に参画し、その個性や能力を十分に発揮できる社会と、すべての市民の人権が尊重され、互いに共存できる豊かな社会の実現に向けた取組を推進します。地域の特性を活かした取組や多様なコミュニティ活動の活性化を促進し、市民が主体となった地域課題の解決やまちづくりへの支援に努めます。

【前総合計画からの課題】

- ・市民参加の拡大
- ・町内会加入率の低下
- ・コミュニティ施設の老朽化への対応

【個別計画】

- 第4次石狩市男女共同参画計画
- 石狩市特定事業主行動計画
- 第3期石狩市教育委員会特定事業主行動計画

策定経緯

■石狩市総合計画策定審議会

平成25年 12月 19日	第1回石狩市総合計画策定審議会
平成26年 1月 23日	第2回石狩市総合計画策定審議会
2月 26日	第3回石狩市総合計画策定審議会
7月 16日	第4回石狩市総合計画策定審議会
9月 16日	第5回石狩市総合計画策定審議会(分科会)
10月 6日	第6回石狩市総合計画策定審議会(分科会)
10月 29日	第7回石狩市総合計画策定審議会(分科会)
12月 18日	第8回石狩市総合計画策定審議会
平成27年 2月 26日	第9回石狩市総合計画策定審議会

■まちづくりディスカッション

平成25年 9月 15日	いしかりまちづくりディスカッション2013(1回目)
10月 6日	いしかりまちづくりディスカッション2013(2回目)

■その他(各種ワークショップ、アンケート調査等)

平成25年 7月 18日	いしかり地域討議会
8月 22日	市民カレッジ運営委員会による「まちづくり討議会」
10月 24日	高校生による「まちづくりディスカッション」
12月 4日	平成25年度市民意識に関するアンケート調査
平成26年 5月 29日	若手市職員による「職員ワークショップ」
11月 19日	中学生による「まちづくり意識調査」
平成27年 1月 16日	平成26年度市民意識に関するアンケート調査

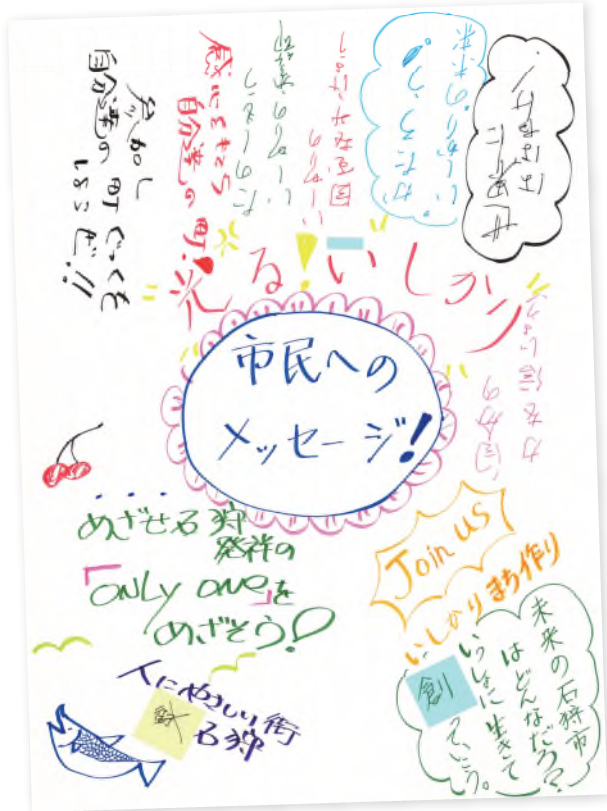
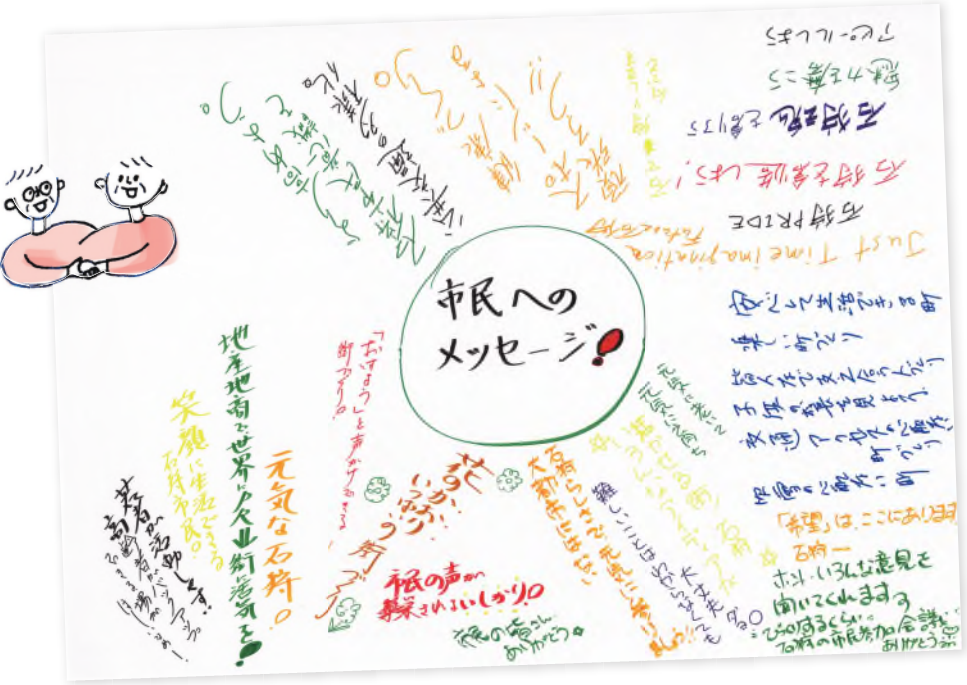
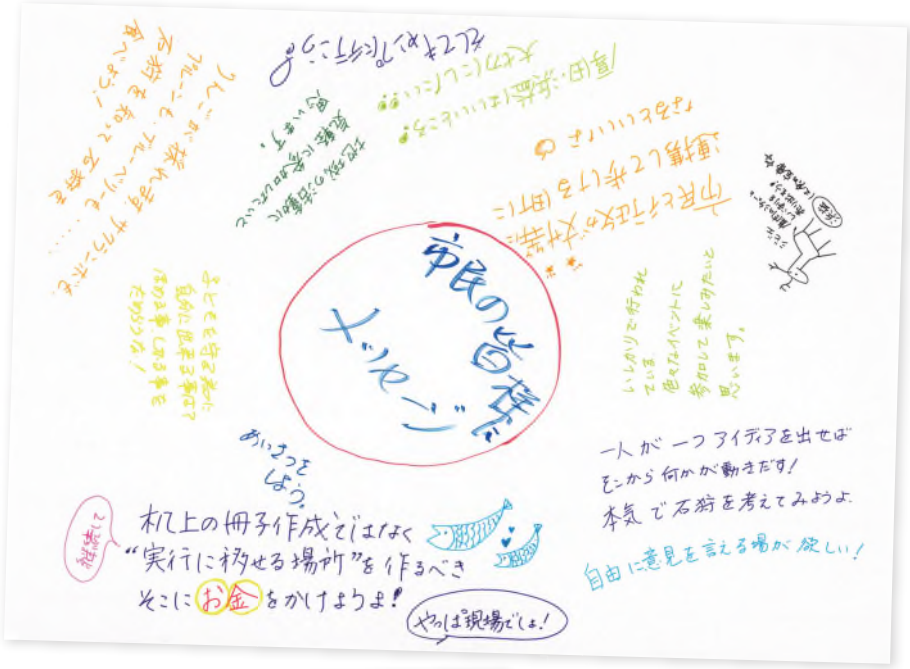


みんなでつくろう「いしかり」

審議会委員の想い



審議会委員から市民へのメッセージ



第5期 石狩市総合計画
いしかりしまづくり本
2015年10月（2023年改訂）
発行 石狩市企画経済部企画課
石狩市花川北6条1丁目30番地2
（TEL 0133-72-3161）
策定支援 株式会社KITABA
デザイン 空のアトリエ